

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

県議会では9月度定例会が既に始まっておりますが、注目の案件である個人県民税減税については、執筆時には正式な議案として議会に提出されておられませんので、多くの皆様からの意見を頂戴しつつ、経済効果等を考慮し、最良の結果となるよう努める事をお約束し、詳細については次回以降に寄稿させていただきたいと存じます。

従って、今回は8月末にインド・タイにおける日系企業進出実態調査を行ってまいりましたので、それぞれの国に対する所感を述べさせていただきますが、先ず一ヶ国目のインドですが、自動車等は壊れるもので、品質より価格優先というのがインドの常識のため、品質を武器とする日系メーカーにとって非常に厳しい国である事を改めて痛感させられました。

しかしながら、人口12億人という内需への期待等から、インドは新規進出先として無視できない国であるため、引き続き注視してまいります。

続いて2ヶ国目のタイについてですが、首都バンコクだけを見れば、既に日本を追い越しているのではと思わせるような成長ぶりです。且つ、更なる成長も期待されていますが、タイ自動車産業においては、現地でのサプライチェーンが既に構築されており、今からのタイ進出は、よほどの固有技術を有する企業でなければ成功しないと感じました。

一方、東南アジアはタイを中心に今後発展していくと考えると、今以上に日本人駐在員は増加するため、サービス業等であれば、今からの進出でも充分成功可能と感じました。

どちらにしても、日本にとっては、国内雇用維持とグローバル化の相反する課題を克服しなければならず、今回の調査結果を無駄にする事が無いよう、議会等での提言に活かしてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 